

わかりやすいプロジェクトの「ミッション」と「ルール」

わかりやすいプロジェクトが目指す『ミッション』

国会事故調を出発点とし、世代を超えて
『社会のシステム』を考える機会を共有する



Facebook:wakariyasuiproject

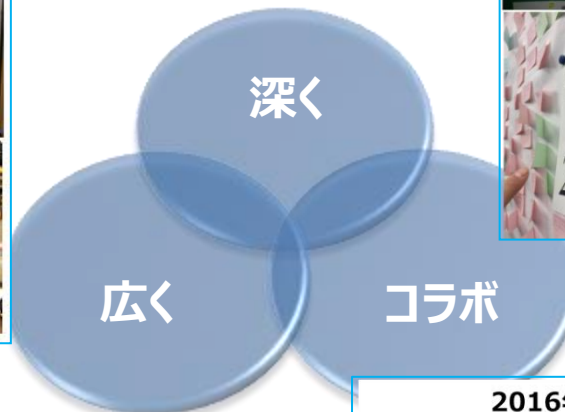
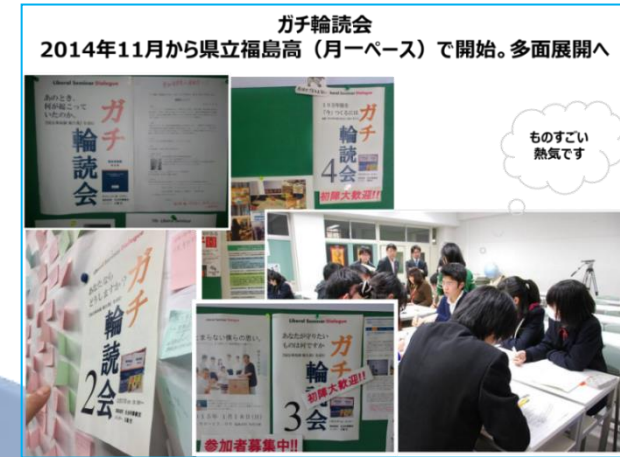


Facebook:pseofnaiic
<http://naiic.net/>

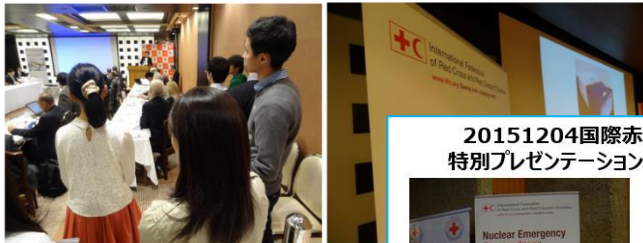
【わかりやすいプロジェクトの『ルール』】

1. 互いの立ち位置は問わない
2. 「なぜ」を追求する
3. 討論型主張・主張・主張)ではなく、
対話型 (傾聴・学習・対話) の場とする

わかりやすいプロジェクトは 「世代を超えた『考える場』」を目指しています



第三回原子力災害対策関係国赤十字社会議 高校生チーム特別プレゼンテーション



<http://ndrc.irc.or.jp/special/>

20151204国際赤十字赤新月社連盟総会サイドイベント 特別プレゼンテーション（わかりやすいプロジェクト学生チーム）



2016年8月28日 第一回防災推進国民大会 日赤コラボ出展「忘れないの先へ～超世代学び合いワークショップ～」



ILLUSTRATED VIDEOわかりやすいイラスト動画

<http://naiic.net/iv/>

✓ 日本語版 2013年08月31日リリース／英語版 2013年10月31日リリース

学生メンバーを中核にみんなで作りました。

国会事故調報告書を16分強で概観するイラスト動画決定版！



1. 国会事故調ってなに？



2. 事故は防げなかったの？



3. 原発の中でなにが起きていたの？



4. 事故の後の対応をどうしたらよかったの？



5. 被害を小さくとどめられなかったの？



6. 原発をめぐる社会の仕組みの課題ってなに？

高校生【福島県×首都圏】次世代プロジェクト 2015.3.8.共同コメント 原発事故から「未来」が見えた。「未来」の子どもに誇れる「いま」を。

私たちは【福島県×首都圏】次世代プロジェクトに参加した福島県と首都圏の高校生です。
私たちは2015年1月～3月にかけて国会事故調報告を出発点として計5回の「ともに考えること」に取り組んでまいりました。

私たちは、こんな「未来」に参加したいと考えています。

1. 大人の本音が聞ける「未来」。
2. 皆が考えることに妥協せず、多様な意見が互いにwin-winになるまで考え抜く「未来」。
3. 皆が考える材料を自分に当てはめて、自らがどんな社会的役割をもてるか、主体的に考え続ける「未来」。
4. 対症療法（目に見える課題を潰すこと）に満足せず、慢性疾患（根本的な課題）を直視する「未来」。

私たちを取り巻く世界、いま福島原発事故を取り巻く状況を通してみえる「未来」はそんな理想の世界でしょうか。

私たちが参加したい「未来」を創るためには、以下のようなことが必要だと考えます。

1. 「大人と大人」「大人と子ども」「多数と少数」「個人と個人」が本音で語り合うこと。
 - そこでは「立場」等を介在させず、「理由」と「根拠」に基づく議論がwin-winになるまで重ねられます。
 - 参加者は相互に信頼し、結論を急がず広い視野を持って少数の意見を尊重し、全員が主体的に考えます。
2. このような「場」が作られてゆくためには、自分の意見の根拠を考え、少人数のグループをつくって意見を交わし合意できる場とその教育が不可欠です。

私たちはまずは同年代と一緒に考える「場」を創ることに取り組み、子どもが変わる姿を大人に見せていきたいと考えます。

私たちは未来に対する努力を重ねていきたいと思います。

私たちは泳ぐことをあきらめ、ただ流されるままの魚のようになりたくはありません。

この共同コメントはその中間報告です。